



Hachioji MAIL NEWS

輸送サービス労組 八王子地本
JR EAST TRANSPORT SERVICE WORKERS' UNION HACHIOJI



ホームページ

2022.02.03
No. 112



Twitter

八地申第19号 2月2日

2022年3月ダイヤ改正に関する申し入れ

2021年12月23日に八王子支社より「2022年3月ダイヤ改正について」の提案を受けました。2022年3月ダイヤ改正では、昨年に続きコロナ禍によるお客さまの生活様式の変化に伴うご利用状況にあわせた朝通勤時間帯や優等列車を含めた輸送体系の見直しや輸送力の適正化を行うとともに、「変革2027」の実現に向けた施策の一つとして、八高・川越線でワンマン運転を実施するとされています。

今ダイヤ改正において「変革2027」の実現に向けて様々な施策が合わせて実施され社員の働き方が大きく変化をしていくなか、新型コロナウイルス感染症の終息の兆しが見えない状況下で公共交通機関の役割として地域の足としてお客さまに安心してご利用していただくため、現場で施策を担う社員が安全で安心して働くことが出来る環境を築き上げなければなりません。

したがって下記の通り申し入れますので、会社の真摯な回答を要請します。

申し入れ項目

1. 2022年3月ダイヤ改正実施にあたり、2021年3月ダイヤ改正における成果、課題を明確にし、問題点を改善する施策とすること。
2. 社会インフラを担う鉄道業として、今ダイヤ改正実施にあたり、自治体と行った意見交換の内容を明らかにし、地域の足として安全レベル、サービスレベルを低下させないダイヤとすること。また列車の減便に伴う社員の技術力低下をさせない教育体制を整えること。
3. 職場の標準数の示し方を変更した理由を明らかにすること。また、標準数の示し方の変更に伴い、改めて全乗務員職場の体制を示すこと。
4. 2022年3月ダイヤ改正において乗務員の業務等の見直しが実施される業務内容について明らかにすること。また、2022年3月ダイヤ改正において乗務員の業務等の見直しを実施する根拠を明らかにすること。
5. 八高・川越線ワンマン運転に伴う乗務員の業務量の増加による負担を軽減させるため、川越駅での4両編成の列車は上り本線、下り本線のための発着とし、中線発着はやめること。
6. 2022年3月ダイヤ改正に合わせて実施される会社施策において、現場で働く社員が安全で安心して働ける労働環境を整備したうえで施策を実施すること。

安全・サービスレベルが向上するダイヤ改正を実現させよう！



Hachioji MAIL NEWS

輸送サービス労組 八王子地本
JR EAST TRANSPORT SERVICE WORKERS' UNION HACHIOJI



ホームページ

2022.03.09
No. 136



Twitter

八地申第19号

2022年3月ダイヤ改正に関する申し入れ

団体交渉開催(その1)

1. 2022年3月ダイヤ改正にあたり、2021年3月ダイヤ改正における成果、課題を明確にし、問題点を改善する施策とすること。

【回答】お客さまのご利用状況等を考慮した輸送体系の見直し等を実施する。

主なやり取り

(組合) 2021年ダイヤ改正の成果は？ → (会社) 終電繰り上げにより、工事間合いを確保することが出来た。

(組合) 中央線普通列車等の本数削減を行う理由は？ → (会社) 乗車率を見て判断した。

(組合) これまで小淵沢駅での「車内点検は車掌」「車内清掃は駅社員」が行うと作業が明確化されていたが、車掌に「汚物清掃の取り扱い」が周知されている。車内清掃は駅社員が行うことが基本で変わらないか？

(会社) 状況により車掌にも協力してもらうことはあるが、基本は駅社員が行う。

確認！

2. 社会インフラを担う鉄道業として、今ダイヤ改正実施にあたり、自治体と行った意見交換の内容を明らかにし、地域の足として安全レベル、サービスレベルを低下させないダイヤとすること。

また列車の減便に伴う社員の技術力低下をさせない教育体制を整えること。

【回答】お客さまのご利用状況等を踏まえたダイヤとする。なお、引き続き必要な教育は行っていく。

主なやり取り

(組合) 自治体への周知は出来ているのか？ → (会社) 自治体には説明を行っており、理解を得られている。

(組合) 減便に伴い乗務経験が減り、技術力の低下や線見・見習乗務員の教育に影響が出ることへの対策は？

(会社) 減便により技術力が低下するとは考えていない。不安がある社員は、指導担当に相談してもらい、シミュレーターの活用や乗務機会を増やす等の対応を行っていく。

対立！

確認！

「技術力は低下しない」 ↔ 「不安がある場合は…」
矛盾する会社回答。安全軽視の姿勢が明らかに！！



3. 職場の標準数の示し方を変更した理由を明らかにすること。

また、標準数の示し方の変更に伴い、改めて全乗務員職場の体制を示すこと。

【回答】現業機関における柔軟な働き方の推進の趣旨を踏まえ、一律的な要員管理を見直すこととした。

主なやり取り

(組合) 提案時に示されていない豊田運輸区と東所沢電車区の要員体制を示すこと。

(会社) 業務量が変わらないので示さない。

対立！

(組合) 一律的な要員管理とは？

(会社) 兼務や育児・介護等、様々な働き方をする社員がいる為、これまでの一律的な要員管理ではなく1日の出面数で示すようにした。

(組合) 出面数で示されたことで、必要な要員数の目安(=標準数)が分からなくなった。

(会社) 1日の出面数は、1日に必要な要員数である。

(組合) 休日出勤が多発している職場があるが、今回の要員管理の見直しにより解消するのか？

(会社) 研修や業務量の変更等により、出面数は変更になることがある。

引き続き、要員の管理は会社が責任を持って行っていく、必要な要員を確保していく。

確認！

その2へ



Hachioji MAIL NEWS

輸送サービス労組 八王子地本
JR EAST TRANSPORT SERVICE WORKERS' UNION HACHIOJI



ホームページ

2022.03.09
No.137



Twitter

八地申第19号

2022年3月ダイヤ改正に関する申し入れ

団体交渉開催(その2)

4. 2022年3月ダイヤ改正において乗務員の業務等の見直しが実施される業務内容について明らかにすること。

また、2022年3月ダイヤ改正において乗務員の業務等の見直しを実施する根拠を明らかにすること。

【回答】技術革新や業務内容の変化を踏まえ、今後、これまでの役割分担にとらわれない柔軟な働き方を実現するために、安全・安定輸送を確保しつつ、働きやすさの向上を図りながら見直しを行うものである。

主なやり取り

(組合) 今ダイヤ改正で行う乗務員の業務等の見直しについて、具体的な変更点を明らかにすること。

(会社) 入区点検や3分前出場の見直し等を行う。列車や職場ごとに時間が異なるので、職場で確認して欲しい。

(組合) 営業統括センター化により乗務員区所での業務にどのような変更があるのか明らかにすること。

(会社) 委員会活動・組織横断プロジェクト・乗務員に対する兼務等の変化はある。

(組合) 南越谷駅において乗務員が車内清掃を実施する理由を明らかにすること。

(会社) これまでは南浦和の事務所からJETS社員がタクシーで向かって車内清掃を実施していたので、そこを見直し、乗務員が実施するようにした。清掃時間は確保している。

5. 八高・川越線ワンマン運転に伴う乗務員の業務量の増加による負担を軽減させるため、川越駅での4両編成の列車は上り本線、下り本線のみを発着とし、中線発着はやめること。

【回答】お客さまの利便性を考慮し、番線を指定している。

主なやり取り

(組合) お客さまの利便性とは具体的にどういうことが明らかにすること。

(会社) 同一ホームでの乗り換えにより、スムーズに乗り換えていただけるということである。

(組合) ダイヤ設定次第で着発線の中線以外に変更できないのか？

(会社) ダイヤ改正後、調査・検証を行っていく。

確認！

6. 2022年3月ダイヤ改正に合わせて実施される会社施策において、現場で働く社員が安全に安心して働ける労働環境を整備したうえで施策を実施すること。

【回答】社会の急速な変化を踏まえ、グループ経営ビジョン「変革2027」の目指す「鉄道起点のサービスからヒト起点のサービスへの転換」に向け、諸施策について時間軸をしっかりと意識し、スピード感を持って積極的に推進、実現していく考えである。なお、必要な準備は進めていく。

主なやり取り

(組合) 現場では、ダイヤ改正実施まで時間の無い中で訓練等を実施せざるを得ない状況であり、社員は困惑している。施策を実施する際は、余裕あるスケジュール感を持ち、万全な状態を確保したうえで行うように改めるべきだ。

(会社) 施策実施のタイミングは色々ある。スケジュール感を持って行っているという認識である。

対立！

(組合) 乗務員の駅における取り扱い変更に関する情報が駅に伝えられていない。

運輸部とビジネス推進部が連携を強化したうえで、必要な情報を関係箇所へ早急に伝えること。

(会社) 連携を取り、必要な情報を関係箇所へ伝えていく。

確認！

現場へ責任を押し付け実施される施策ばかりでは、

社員の「働きがい」「生きがい」は向上しない。

社員への訓練・教育を余裕を持って行い、現場の声を反映した施策とするべきだ！